神戸市協会　昭和61年度評議員総会開催

神戸市サッカー協会（河本春男会長）は、５月２日、三木記念神戸市立スポーツ会館会議室で昭和61年度総会を開き、昭和60年度事業報告、決算報告、61年度事業計画、予算、スポーツ会館運営、その他について報告と審議を行い、各議案を可決した。そのうち第３号議案の昭和61年度事業計画は下記の通り。

昭和61年度　事業計画

(1)　神戸市協会主催の大会及びリーグ戦

第１種（社会人）
1. 第28回　神戸市民大会　４月 ～ ５月
2. 社会人リーグ戦　４月 ～ 12月
   関西社会人リーグ　県社会人リーグ
   神戸市社会人リーグ〈１部～３部〉
3. 神戸市総合体育大会　８月 ～ 10月
   各区予選　８月、本大会　10月
4. 神戸市社会人リーグ選手権大会　１月 ～ ３月

第２種（高校生年齢）
1. 神戸市総合体育大会　８月
2. 神戸市高校新人大会　12月 ～ １月
3. 神戸市内高校春期リーグ　３月

第３種（中学生年齢）
1. 第28回　神戸市民大会　４月 ～ ５月
2. 第６回　市中学生ジュニア大会　７月
3. 兵庫県中学生選手権神戸市予選　９月 ～ 10月

第４種（小学生年齢）
1. 神戸市少年リーグ（１部 ～ ５部）　４月 ～ ２月
2. 第10回　全日本少年神戸市大会　５月
   〃　兵庫県大会　６月
3. 第19回　兵庫県少年大会　11月
4. 第８回　神戸兵庫ライオンズ杯大会　８月 ～ ９月
5. 第３回　〃　春期新人戦　３月
6. 第14回　ジュニアウインターフェスティバル　１月
7. 第５回　ミニサッカー大会　９月

（Ⅱ）五大都市体育大会 横浜市　７月

（Ⅲ）神戸市で開催される主な大会
1. 日本サッカーリーグ　８月 ～ ５月
2. 関西社会人・学生リーグ４月 ～ 10月
3. 兵庫県社会人リーグ　４月 ～ 10月
4. 兵庫県社会人都市リーグ中央大会　10月 ～ 12月
5. 天皇杯全日本選手権兵庫大会、関西大会、中央大会
6. 兵庫県高校選手権大会兼全国大会予選　10月 ～ 11月
7. 日中ジュニアユース大会　５月３日

（Ⅳ）選手の強化・指導
1. 少年選抜の編成と強化・大会派遣
2. 中学生優秀選手指導と選抜の編成、強化
3. 高校生　〃　〃
4. 五大都市体育大会代表の選考と強化
5. 県都市対抗大会社会人の選考と強化
6. 中学生・高校生トレーニングセンターの開催

（Ⅴ）講習会・研修会
1. 少年指導者講習会(初級、中級、審判)
2. 2･3級審判研修会　４級審判養成講習会
3. 少年・中学補助審判講習会
4. おかあさんのサッカー教室

（Ⅵ）月刊「神戸のサッカー」発行　No.147 ～ No.158

（Ⅶ）会　議
1. 総会　５月２日　６時　サッカー協会
2. 理事会　〃　５時　〃
3. 常任理事会　２ヶ月に１回
4. 委員長会議　〃
5. 各種別代表者会議
6. 技術・審判等専門委員会
7. 編集委員会
8. スポーツ会館運営委員会

兵庫県協会　役員改選

兵庫県サッカー協会（高砂嘉之理事長）は６月１日三木記念神戸市立スポーツ会館で、昭和61年度評議員総会を行い６議案を評議し可決した。そのうち第３号議案では、評議員から下記の理事、常務理事を選出した。

61年度 兵庫県サッカー協会 役員名簿

理事長	高砂嘉之		
常務理事	津川昌治	中村寿男	前野　正
	河北穎数	浅堀保彦	岡村　敬
	皆木吉泰	佃　幹夫	師田二郎
	西林惠三	一北四郎	五島祐治郎
	高橋敏雄	白石幸夫	一北保五郎
	藤原　恵	蔵　力夫	立花専治
	長岡康規	藤田利明	桐原正記
	八木　寛	岡本隆英	
理　事	大黒一弘	野上昭弐	松永隆四郎
	伊藤　直	岡田和泰	石田健郎
	中西　勇	畑岡快夫	河内惇一
	岡崎充利	藤岡良章	吉川博司
	石塚哲郎	柏原正明	山下隆生
	上田幸司	瀬川善博	溝口　薫
	山下孝司	鳴瀬良一	大谷輝彦
	佐藤敏郎	松岡隆男	大橋慈郎
	塚原忠雄	小島和夫	顕木新一
	黒田和生	山本幸夫	播磨壮大
	山下俊雄	市川雄一	沢　正彦
	木村　潔	細見昌宏	藤原浩之
	伊窪吉和	加藤　寛	花峯伸行
	浅野正倫	山根　誠	山本　実
	古結玄修	小松　実	森田哲哉
	細谷一郎	山名康雄	杉村昌幸

第28回 神戸市市民大会 結果

（決勝）神戸ビートルズＦＣ(Ａ)　５ $\binom{1-0}{4-0}$ ０　須磨クラブ

神戸市民大会社会人の部　神戸ビートルズＦＣ(Ａ)

第28回神戸市民大会社会人の部は３月21日から神戸中央球技場サブグラウンドを中心に45チームが参加して開かれ、５月11日、神戸中央球技場メインで３位決定戦と決勝戦が行われた。その結果、神戸ビートルズＦＣ(Ａ)が須磨クラブを５対０で降し、２年振り２度目の優勝を飾った。また３位決定戦では、双和クラブが神戸ＦＣ(Ａ)を１対０で破り、昨年に続いて３位となった。

決勝戦は２年振りの出場で２度目の優勝を狙うビートルズＦＣ(Ａ)と、アーセナルＦＣ、神戸ＦＣ(Ａ)の１部リーグ勢を連破して波に乗る須磨クラブとの対戦となった。

立ち上がりから優勢にゲームを進めるビートルズＦＣは前半14分、玉崎(文)からの絶妙のスルーパスをＬＷ小前が合わせ先取点をあげた。須磨クラブも何度かビートルズゴールを襲ったが決定力を欠き得点をあげることが出来なかった。逆に後半15分以降は、技術、体力、戦術の全てで上回るビートルズＦＣの、一方的なゲームとなり畠山、山田、田渕が追加点をあげて、５対０で快勝した。

優勝したビートルズＦＣＡ

神戸市社会人運営会議予定
次回　９月18日㈭

10月16日、11月20日、12月18日、１月22日、２月19日、３月12日、３月19日。いずれも18時30分から王子登山研修所。社会人リーグに参加している各チームの代表者が必ず一人出席して下さい。

個人購読のご案内

弊紙を個人で購読ご希望の方は、１年分として70円切手12枚を同封のうえ、次のところへお申し込みください。
〒650 神戸市中央区八幡通２－１－10
三木記念神戸市立スポーツ会館内
神戸市サッカー協会 ☎078-232-0753
なお、数人分まとめて申し込まれる場合は割引がありますのでご連絡ください。

本紙は右記の店にもあります

有宏スポーツ
東灘区御影本町4丁目11-9　☎078(412)2601
阪神御影駅南側西へ30m

塩谷スポーツ
兵庫区大開通７丁目5-26　☎078(576)0870
高速大開駅東

MEN'S SHOP MAC
三宮センター街店　☎078(391)0895
プレザーショップ、トーアロード店　☎078(391)0896
ドルチェ・マック、センター街店　☎078(332)0141

ヤノ運動用品
本　店　中央区三宮町3-8-1 ☎078(391)1121
ファイブ店　中央区三宮町2-7-8 ☎078(331)4578
六甲、長田、白川台、名谷、西明石、高砂、姫路、岡山

スメラ
湊川店　湊川プラザ２階　☎078(511)2234
鈴蘭台店　ダイエー西側　☎078(592)0470

加茂 トアロード店
中央区三宮町３－８－８　☎078(392)0234
国鉄元町駅南側東へ100ｍ

サッカーショップ PKF
中央区下山手通３丁目3-10　☎078(332)5519

ワールドスポーツ
東灘区深江北町４丁目７－３　☎078(453)2186
阪神深江駅北側信号西

Juchheim's
Für große und kleine Feinschmecker Kobe·Frankfurt am Main Seit 192*
ユーハイム

月刊
神戸のサッカー

1986　5・6月号

発行所　神戸市サッカー協会
神戸市中央区八幡通2-1-10
三木記念神戸市立スポーツ会館内
〒651　☎ (078)232-0753
発行人および編集人　一北　四郎
神戸市灘区上野通６丁目３－１２
〒657　☎ (078)861-3100
毎月1回10日発行 購読料１部50円

昭和61年度 第30回兵庫県 高校総体滝川第二初優勝を飾る

昭和61年度第30回兵庫県高校総体サッカー競技は５月４日から152校が参加して加古川北、伊丹北、尼崎小田、西宮東、市西宮、東灘、六甲、長田、北須磨、滝川第二、津名、赤塚山、姫路球技スポーツセンター、磯上球技場、王子陸上競技場で準決勝までの150試合を挙行した。決勝戦と３位決定戦は６月９日㈪神戸中央球技場で行われた。３位決定戦で、県芦屋が２対１で御影工をくだしたあと決勝で、滝川第二が御影を延長戦のすえ３対１で破って、初優勝をかざった。

▷決勝（６月９日、神戸中央）

滝川第二　３ $\left(\begin{matrix}1-1\\0-0\\1-0\\1-0\end{matrix}\right)$ １　御　影

61年度高校総体サッカー競技決勝戦　評

滝川第二高がや、有利という前評判に反しキックオフ直後より御影の激しい攻撃が展開され、再三先制のチャンスをつかんだ。これに対しやや出鼻を挫かれて戸惑い気味になった滝川第二はゴール前を必死で固め、中盤にボールを送ったが焦りもあって巧く攻撃につなぐことが出来ず、防戦を余儀なくされた。

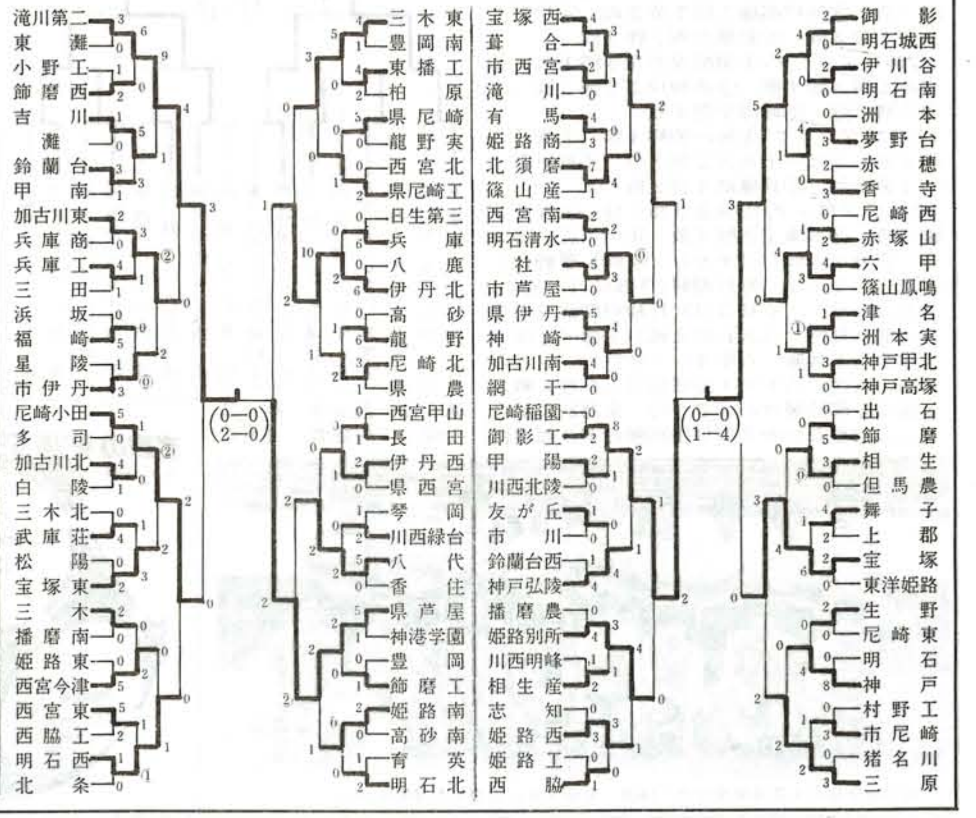
ゲームは御影有利な展開が続くが滝川第二の本街をかなめとするディフェンスは強く、仲々ゴールを破れず、逆に焦りの出だした御影がディフェンスの一瞬のすきを突かれ、左外側からの逆襲を喰って先制を許す結果となった。苦しい状況に耐え逆に一点を奪った滝川第二はようやく落着きを取り戻し、中盤の畑、藤田を中心に本来のゲーム展開を操りひろげ、ゲームは一進一退の好ゲームとなった。一点を追う御影には金をはじめとする強力メンバーがおり、冷静に御影の特徴を発揮し、山中、文箭らが巧く攻撃参加して同点のチャンスをものにし、みごと前半で試合を振り出しに戻した。

後半、滝川第二は畑、藤田の中盤から牧野、亀谷の連係で攻撃し、御影は山中、金が積極的に走って逆転を狙うが、双方譲らず試合は延長戦へともつれこんだ。

延長に入ってお互いに当りも弱くなり、それぞれのチェックがやや甘くなりはじめると、滝川第二の中盤は巧なドリブルでミッドフィールドを制し楽に攻撃を仕掛ける結果となってきた。逆に御影は山中、金の突破も容易になるが、本街の壁が厚く攻め入れない。もう一枚文箭のオーバーラップが欲しい所だが、相手の外側からの攻撃を防ぐために精力を集中せざるを得ない状況で、出るわけにもゆかず、滝川第二のＦＷ牧野、亀谷らの頑張りで前後半1点づつをゲットされた。体力にかげりを見せはじめた御影ディフェンスラインを滝川第二の個人技が破りはじめて間もない出来事であった。滝川第二にとっては創部以来３年目の大快挙であり全国大会での活躍が望まれる。

全国大会では初戦金沢桜丘とが決定しており、四日市中央、国見、帝京など強豪が顔を並べるブロックに位置し、いずれも激戦が予想される。　　佃　幹夫

昭和61年度第30回兵庫県高校総体　成績表（２回戦から）

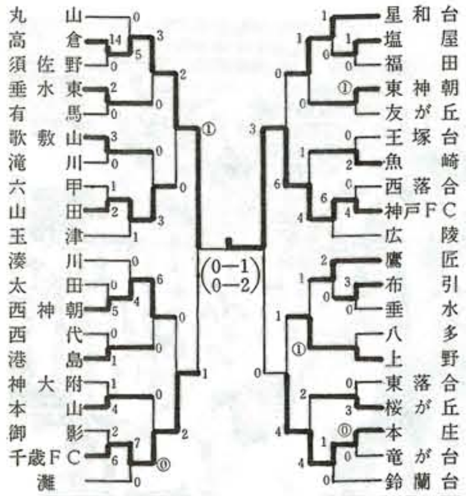


第28回　神戸市中高生選手権大会
神戸FC6連勝7回目の優勝

第28回神戸市中学生選手権大会は4月27日から垂水、星和台、竜が台、灘、六甲、御崎サブ、ポートアイランド球技場の各グラウンドで、40チームが参加して行われた。

決勝は5月11日、準決勝で千歳FCを1対1の引分けのあとPK戦で降した高倉中と、初戦からあぶなげなく勝ち進んで準決勝で本庄中を3対0で破った神戸FCとの間で争われた。打倒KFCと意気ごむ高倉中の猛攻で試合は白熱したが、神戸FCが、前半1点を取り後半2点を加えて勝負を決め6年連続、7回目の優勝をとげた。

第28回　神戸市中学生選手権大会　結果



昭和60年度神戸市高校春季リーグ戦　結果

〈1部Aブロック〉①滝川第二3勝　②神戸弘陵2勝1敗　③北須磨1勝2敗　④八代3敗
〈1部Bブロック〉①赤塚山2勝1分　②御影2勝1分　③御影工1勝2敗　④六甲3敗
〈2部Aブロック〉①育英2勝1分1敗　②兵庫2勝1分1敗　③須磨東1勝2分1敗　④長田1勝1分2敗　⑤鈴蘭台1勝1分2敗
〈2部Bブロック〉①神戸甲北4勝　②KFC1勝2分1敗　③須磨2分2敗　④星陵1勝2分1敗　⑤東灘1勝3敗
〈3部Aブロック〉①夢野台4勝　②市神港2勝2敗　③神戸高塚1勝1分2敗　④村野工1勝1分2敗　⑤鈴蘭台西1勝3敗
〈3部Bブロック〉①須磨友が丘3勝1敗　②神戸工専3勝1敗　③市神戸工2勝2敗　④灘2勝2敗　⑤神港学園4敗
〈3部Cブロック〉①神戸朝鮮4勝　②舞子2勝2敗　③ビートルズ2勝2敗　④神戸西ノ勝1分2敗　⑤兵庫商1分2敗　1
〈3部Dブロック〉①葺合3勝1分　②神戸3勝1分　③兵庫工2勝2敗　④伊川谷1勝3敗　⑤滝川4敗　〔チャレンジ戦〕夢野台(部A.1) 1―4　神戸朝鮮(3部C.1) 友が丘(B.1) 0　0葺合(D.1)神戸朝鮮友が丘は2部へ昇格　〔入れ替え戦〕1部―2部　八代2―1兵庫　六甲4―0神戸FC（この結果、八代、六甲が1部残留)〔入れ替え戦〕2部―3部鈴蘭台1―0夢野台　東灘2―3葺合（この結果葺合が2部早格鈴蘭台が2部残留)

第10回全日本少年兵庫県大会に優勝、全国大会に出場した神野チーム

第10回全日本少年大会兵庫県代表に
神野少年SC初優勝 敢闘賞に高倉台

第10回全日本少年大会兵庫県大会は6月8日、15日。姫路市立球技スポーツセンターで、県下13地区207チームから勝ち進んだ、16代表による勝ち抜き戦で行われた。決勝戦は東播代表神野少年SCが、西宮代表武庫川FCを1対0で破って初優勝を飾り、兵庫県代表として全国大会出場の座を勝ち取った。

神戸市代表の多井畑は1回戦で0対1、高倉台は2回戦で2対3と、どちらも淡路代表西淡湊にやぶれ上位進出をはばまれた。

第10回全日本少年大会評　　師田二郎

10回をむかえた全日本少年サッカー大会の兵庫県大会は、おなじみの姫路市立球技スポーツセンターで県下13地区の16代表チームによって行われた。

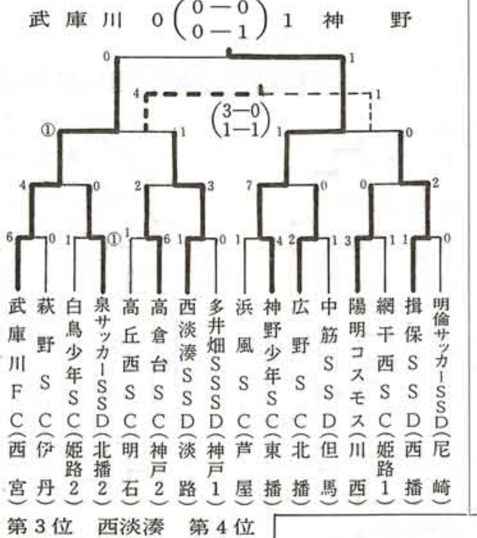
梅雨にはめずらしく6月8日、15日の2日間とも、晴天にめぐまれた。県下の参加チーム数は207チームと、初めて200チームをこえた。県大会の出場チームの中では、常連の、千歳サッカークラブが、神戸地区予選で敗れて出ていないのと、西宮少年サッカークラブが、同クラブから分離独立した、武庫川FCに出場権を奪われて、出て来なかった。総体的にみて今年のチームは、どこのチームも小粒なようであった。

試合の成績は別掲のとおりである。

この大会は地区予選の段階から、読売新聞紙上に、成績を掲載してくれ、又県大会の出場チームは、各チームのプロフィールと、メンバーが掲載されるので、出場する選手もより一層はりきるし、また、家族の応援も盛んである。

最近は各都市協会の少年委員長各位が、地区予選の開催、運営をスムースに行ってくれるので、県大会の運営も万全に行われていると思う。今年は初めて16チームで開会式を行った。　（兵庫県四種委員長）

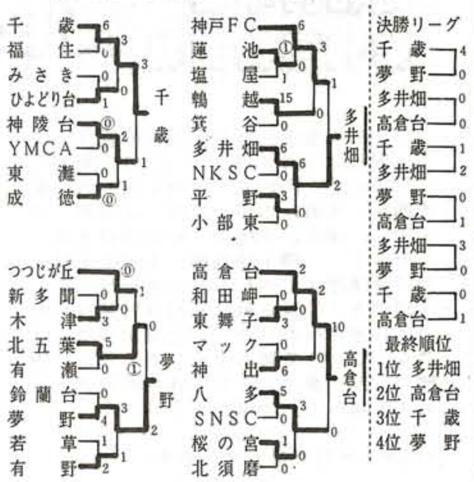
第10回全日本少年大会兵庫県大会結果



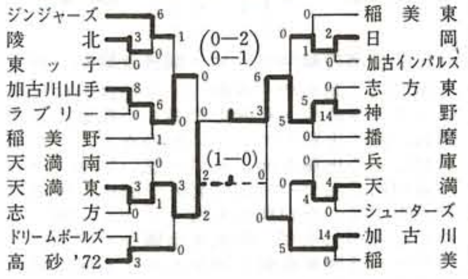
第3位　西淡湊　第4位
揖保　敢闘賞　高倉台

兵庫県大会出場の2チームを決める神戸市大会は、5月3、4、11、18、25日と御崎少年サッカー場で、参加35チームで4ブロックのトーナメント、そのあと各組1位4チームによる総当り戦を行った。その結果多井畑が優勝して代表1に、準優勝の高倉台が、代表2となり、県中央大会へ駒を進めた。

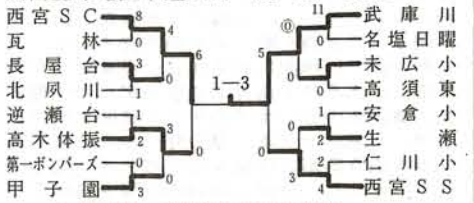
神戸市予選大会結果
優　勝　多井畑　　準優勝　高倉台



東播地区予選大会　優　勝　神野SC

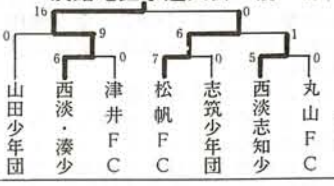


西宮宝塚地区予選大会　優　勝　武庫川FC



5月11日　武庫川グラウンド
5月18日　〃　広田チビッ子広場

淡路地区予選大会　優　勝　西淡、湊小



日時　5月18日
会場　津名町臨海グラウンド

日本サッカーにルネサンスは起こるか?（28）

枚方FC　近江　達

この連載は、雑誌サッカー・ジャーナルに連載されている枚方FCの指導者、近江達氏の随想をサッカー・ジャーナルのご好意で転載しております。

「日本サッカーの発展のためにはルネサンスにも匹敵する人間性の解放が必要である」と、近江氏はいうが……。

子供の頃から創造性を育てよう

少年は遊びのサッカーの中で育たないといけない。勝つサッカーはもっと、あとでもいい。　メノッテイ

本当は先進国のように子供達はまずサッカーで大いに遊び、少し大きくなって巧くなり、もっと本式にやりたくなったらどこかクラブに入って正式に教育を受ける、というコースが理想的である。しかしわが国ではそうはいかず、学校か少年団のクラブでやるしかない。そこで、クラブの教育に遊びのサッカーの長所をぜひ採り入れる必要がある。

私の場合、練習日はかならずゲームをやる。11対11よりも、一人ひとりのボールにさわれる回数が多くなるように6対6以下の少人数がよい。蹴り合いや、いろんなボール扱いも興味をかき立てるような練習法を考案する。

好きこそものの上手なれだから、初めはそうやって、子供たちが皆サッカーが大好きになるようにもっていく。そうしてゲームが楽しみになり年令もまして理解力や根気がつき、ある程度やる気ができた頃から普通の教育らしいものを加え始め、ぼつぼつ正式にトラップやキックの技術、シュートなどを教えてゆく。むろん必ずゲームもやり、相手ありのゲーム的実戦的練習もずっと続ける。

問題の戦術教育だが、初めのうちはドリブルのTPOとかマーク、3対2の戦い方といった狭義の戦術教育はしない。その代り、最初から頭を働かせてプレーするように習慣づけてゆく。いわば戦術以前の創造性教育で、広義の戦術教育に含めるといい。

たとえば、ゲームで、「何とかして得点してやろうと思って、どうしたら得点できるか、頭を働かせろ。工夫しろ」という具合に、サッカーは頭を働かせ自分で工夫してやるものだ、ということをときどき吹きこんでやる。

また、子供は失点をキーパーだけの責任にしてしまうので、「それは間違い！危いときは皆で守ろう。フォワードだって守ってやれ！家が火事になったら誰が消すなんて言ってられない。誰でもいいから火を消さないといけない。それと同じだ」てなことを言って、「すべての選手は攻守両方ともやらないといけない」という現代サッカーの思想をわかりやすい言葉で教えてやったりする。

1対1や2対2だと、「どうしたら抜けるか工夫しろ！工夫してボールを捕れ！抜かれたら追いかけろ！捕られたら捕り返せ！」などとけしかける。少しわかる子なら、「逆をつけ、スキを見逃すな！」などと言ってやる。

そうして三、四年になってサッカーに慣れてきたところで、「相手と周りの状況を見て感じろ！ボールだけでなく周りに注意し気を配れ！相手のやることを読め！考えろ！判断工夫しろ！」といった具合にプレーの原則や戦い方の基本になることを、その子のレベルや理解力に応じて段階的に吹きこみ、習慣づけていく。習慣づけの時期には、「蹴れ！走れ！」と口やかましく指令して、教わらないとできない、指令されないとやらないといった姿勢を作ってしまわないように気をつける。

どんなプレーを選ぶかは選手に任せる。選択判断した内容の正否は問題ではないので、それにはふれない。もしどうしても、「あそこへパスすべきだったのに」と言ってやりたい場合、私はその子に、「あそこに良い味方がいたのが見えなかったか」たずねる。気付かなかったのなら、まだ見つける力がないのだから極力見るように言う。

見えたのにパスを思いつかなかった場合は、「そこへパスしたらチャンスになると思わなかったか」という具合にイマジネーションをかき立てるように話してやる。

あくまでも選手が人の智恵を借りないで自分自身ですべてをやるように仕向ける。この方針を貫く。教えたいときは、子供といえども選手の主体性を奪わないように表現を工夫し、アドバイスの形にして言ってやる。

ゲームは頭脳の戦い

頭を使わないテニスなんてテニスではない。　ビヨルン・ボルグ

「そんなこと、教えるまでもない」と読者にお叱りを受けるかも知れない。でも日本選手は教えないといけないのである。

欧米人なら生れつき、ゲームが知能や創造性の戦いであることをよくわきまえているので、その必要はないのだが、わが国の常識では、試合は心身ないし心技体の争いなので、子供の頃、誰も頭を働かせてプレーするように言ってくれないし、自分からそうすることもない。それでもさすがに大人になると、必要に迫られて皆頭を使い始める。だがそれでは遅すぎてとても高いレベルにはいけない。だから小さい頃から、そうした戦い方の基本を身につけ、頭を働かせてプレーするように習慣づけ、能力を高めセンスを磨いていくことが絶対必要なのである。

そうしておかないと、いくら熱心に戦術パターンなどを覚えて練習しても、あまり実戦の役には立たない。ちょっと手ごわい相手だと、手も足も出なくなってしまう。

例をあげて説明してみよう。「フリーになってパスをもらえ。パスはフリーな味方に出せ」という原則がある。だが実際はなかなかそう巧くはいかない。たとえば、Aがボールをもったので、Bはパスをもらって突破してやろうと、スペースへスタートした。当然AはBへパスしようとする。ところがBのマーカーは振りきられたが、スイーパーが見つけて向って来た。そこでAはスイーパーに気付いて、パスの成功率をとっさに計算できないといけない。

Aがレベルの高い選手なら、スイーパーがどこを狙っているか、Bがそれに気付いているかどうか、どの辺で受けたいのか、タックルに対応できそうか、といったことを瞬時に読みとって、いけると思ったら、スイーパーに捕られないように工夫してパスを通す。無理ならやめる。したがってボールを捕られることはない。だがAのレベルが低いと、スイーパーが見えない。もし見えても計算しないで、計算しようともしないで、Bだけ狙ってパスするものだから、ボールを捕られる。

△子供の頃から育てたい創造性

残念ながらわが国では前者はきわめて少なく、後者がほとんどである。だが彼らも戦術的知識はもっている。大学生、高校生ともなれば、よその試合を見ながらの批評など大したものだ。でも自分では出来ない。知ってるのと出来るのとでは天地の差で、スポーツ選手はとにかく実際に出来ないことには三文の値打ちもない。それは、相手が見えない、狙いやタイミングが読めないからであり、見ようとしない、読もうとしないからである。

もし見えて読めても、敵のスキをつく、ウラをかく、逆をつく、だますとか、駈け引きや臨機応変の対応処理ができない。というよりも、それを思いつかない。習慣がない。イマジネーション、アイディア、センス、創造性の欠如である。欧米選手との戦術的能力の差異はこの辺りに源を発しているのである。

クラマー氏の定義は言いかえると、「君が銃と刀をもっているのなら、勝つためにそれを上手に使いわけろ。一番有効適切な使い方こそ戦術というものだ」ということになるかと思う。でも私は、「銃だ刀だという前に、まず素手で頭を働かせて戦え、戦い方を一から身体で覚えていけ」と言いたい。

その中で、自分自身の意志で、相手と状況を観察し、相手の出方を読み、相手がこう来るのならこうしてやろうとイマジネーションを働かせ、身をかわしたりタイミングを狂わせたり、逆をつきウラをかいて奇襲したりという具合に駈け引きし、創意工夫して、戦いに必要不可欠な行動習慣や臨機応変の対応力などをしっかり身につけ、創造性やセンスを磨いてもらいたい。　（つづく）